

みぶ町政だより 12月号

昭和51年12月24日発行

発行所 栃木県壬生町役場（毎月24日発行）

昭和34年9月30日 第三種郵便物認可一部9円



鳳輦御神幸祭でにぎわう

11月29日午前11時から雄琴神社で氏子総代や稚児たち約300人が参加して「鳳輦御神幸祭」かにぎやかに行われました。

この行事は、毎年行われている雄琴神社例祭として、10数年ぶりにはじめてのもので、今回2回目の催し物でした。

稚児たちは、主に養年小学校へ入学することもなちで、きれいな衣裳をつけ、おかあさんに手をひかれ、雄琴神社から大通りなど、見物人の中を元氣よく歩きました。

今月の人口

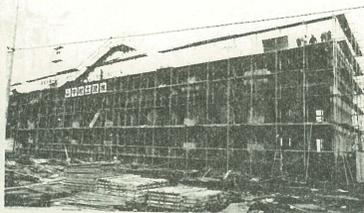
12月1日現在	対前月比
総人口31,712	103人増
男 15,737	64人増
女 15,975	39人増
世帯数 8,079	32世帯増

1月は「家族対話の月」です（家族そろって話し合しましょう）



盛大だった納涼盆踊り

毎年恒例の納涼盆踊りは、今年は8月15、16日の両夜延べ1万人を越える見物人でにぎわいました。



町営住宅建設進む

昭和51年度の事業として、現在下台団地（壬生駅東）に建設を進めています。

3月末の完成をめざして、3階までコンクリートが打ち上がりました。2棟で40世帯が同居できます。



衆議院議員総選挙行

12月5日に衆議院議員総選挙が全国一斉に行われました。

本町では、予想以上の投票率で74.38%でした。

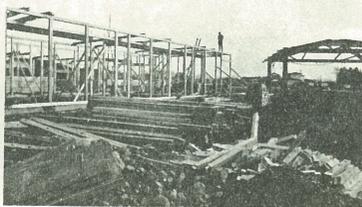
昭和五十一年もあとわずかに
なりました。もうすぐ新しい昭和五十二年
を迎えることとなります。
さて、昭和五十一年は、景気
が回復してはいるものの、物価
の値上りが激しい社会経済が続
いています。
町財政も苦しい状況にありま
すが、経費抑制の中で大きな
事業を勢いづいて努力していま
す。
なんとと言っても、人口増に対
処するための設備投資にも大き
な財源が要される中で、小学
校の新設も行いました。
写真は、昭和五十一年の主な
出来事です。



町営住宅ができる

昭和50年度の事業として、3月末に町営住宅が完成しました。

場所は、下台団地（壬生駅東）に初めて1棟が建ち、入居者も殺到。



第4保育所の建設はじまる

毎年入所希望の多い保育所が、このほど新設することになり、東下台の繩解地蔵尊東側に建設をはじめました。

定員児童数60名で、来年4月から入所できるように工事は着々と進んでいます。

昭和51年を かりかえって



おはやし大会ひらく

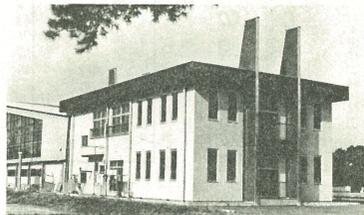
お花見にちなんでボンボリにかこまれた東雲橋下で、民俗芸能の後継者育成を目標に第3回おはやし大会が開かれました。



完成した睦小学校

来年4月から開校する睦小学校は、今や校庭の整地を完了し、生徒たちが入のを待つばかりとなりました。

この事業は、昭和50、51年度の最も大きな事業です。



農村生活センターが完成

農村生活センターおよび総合運動場管理棟は、町民体育館の隣りに完成しました。

この施設は、文字通り農村の青年団や婦人会などが研修の場として、大いに利用されています。

昭和51年の主な出来事

- 1月○新年祝賀会を中央公民館で行なう。
○成人者 471人を迎え、中央公民館で成人式を開催。
○町政懇談会を中央公民館で開催。
○第6回青年団駅伝大会開く。
- 2月○新設小学校の建設はじめる。
○教育文化祭で模範生徒66名を表彰。
- 3月○昭和51年度の予算きまる。
○農村生活センターおよび総合運動場管理棟が完成。
○町営住宅が東下台に完成。
○下水処理場に前処理施設できる。
○農業後継者の新郎新婦を祝福する会を盛大に開催。
- 4月○第3回おはやし大会を東雲橋下で開催。
- 5月○船田知事が専生産状況を視察。
○消防団がボンパ操法の訓練行。
○新設小学校の建設が50%できる。
- 7月○消防団が災害に備えて水防訓練行。
- 8月○消防夏季点検稲藁小校庭で行う。
○納涼踊り夕べ壬生小校庭で盛大に行う。
○郡民体育祭が都賀町を会場に行われ、準備勝を飾る。
- 9月○敬老会を各地区毎に盛大に行う。
○町営住宅の建設はじめる。
- 10月○新設小学校がほぼ完成、また、「睦小学校」と命名。
○おもちゃのまち連合自治会防犯組合が発足。
○第7回町民歩け大会「体育の日」に行う。
- 11月○11名の自治功労者を表彰。
○東雲児童公園内に慰霊碑がらっばに建立。
○第4保育所を東下台に建設はじめる。
- 12月○消防団通常点検が壬生小校庭で行う。
○衆議院議員の選挙が行われる。
○教育文化祭で模範生徒など88名を表彰。

本町では七四・三八%

衆議院議員総選挙の結果

衆議院議員総選挙の結果は、十一月五日午前、一斉に行われました。投票率は、県下九百十八ヶ所の投票所で午前七時から始まりました。また、この日、衆議院議員総選挙の結果と併せて最高裁判所裁判官十人の国民審査も行われました。

本町でも、午前七時から町内十七ヶ所の投票所で投票が行われました。この日は、日曜日ゆつて朝のうちには出足が鈍く、全体的に低調で、投票率は前回(四十七年十二月)を一四八%の落ちる四・三八%でした。

投票率は、上長田公民館の八六・二%を最高に、藤井小学校的の七九・四八%、中央公民館の七七・九七%、次いで壬生寺の七六・四三%、最低は、北小林公民館の六三・六一%、羽生田小学校の六四・八九%でした。

本町の開票結果

五六票	山田 二男
二二六票	むつ山治
六九二票	小下 知雄
三三三票	森 久雄
七〇二票	大岡久照代
二二二票	稲田 一郎
二一九五票	福田 利幸
二九三票	神田 厚
一四八六票	かとお正行



衆議院議員総選挙の様子

事務も順に進み、午後九時四十分には衆議院議員総選挙の開票が終了しました。

投票状況(本町)

有権者数 一、二三四八名(男一〇、四七九名、女一八六九名)
投票者数 一、五八〇名(男七、八四三名、女八〇七名)
棄権者数 一、五四八名(男一、五八四名、女一、九六四名)
有効投票数 一、五四四票
無効投票数 二二四票

戸締りは完全に 防火診断

警察署では、十一月廿五日夜九時から、壬生町管内の官公署、会社、商店、一般住宅などの年末防火診断を、一斉に実施しました。

この防火診断は、年末をひかえて消防事件があとで発生しており、また、火災期にそなえて、火災予防を併せて実施したものです。

これは、警察署そして役場から町長



夜間防火診断の様子

各投票所の状況

投票所	有権者数	投票率
中央公民館	4,008人	77.97%
壬生寺	1,638	76.43%
旭町公民館	923	71.07%
藤井小	814	79.48%
東原小学校	3,523	75.02%
東原坪公民館	741	76.25%
稲葉地区公民館	994	68.21%
七ヶ石公民館	498	73.90%
羽生田小学校	940	64.89%
鯉沼公民館	722	68.70%
北小林公民館	610	63.61%
小坂小学校	2,138	74.88%
上長田公民館	757	86.26%
不動公民館	539	72.17%
助谷公民館	424	73.11%
中泉公民館	449	71.05%
玩具団地研修所	1,606	72.23%
計	21,324	74.38%

大学病院の休診

独協医科大学病院および自治医科大学附属病院では、年末年始の外來診療を次どおり休診になります。

★十二月二十九日(水)から一月三日(月)までの六日間です。

教育文化祭行う

模範生徒八十八名を表彰



(壬生小)、高橋寿夫(稲葉中) 橋本恒(稲葉中)

◎模範児童生徒および成績優秀児童生徒

壬生小 人見里子、日向野枝、遠井領之、館沼富美江、須金健作、和久井孝子、木村和武、大橋み

藤井小 橋本知子

一 藤井小 田中佳宏、今村真恵、玉木康興、荒本千代枝、高橋優

倉井由美子

稲葉中 早乙女誠、篠崎幸男、橋本孝子

羽生田小 奈良勝

一 羽生田小 川又実、大岡真子

安楽小 柏倉志、白井清之

一 安楽小 山田由、経路順、一 壬生中 山田由、経路順、一 海沢塚 丸本孝子、越路正一、戸崎悦子、岩田葉、瀬田倫代、水塚美穂、稲川浩美

一 稲葉中 石川茂、藤原浩典、新井美友哉、神佐佐良

一 南大岡中 安生克、中間唯子、小林直樹、白井直子、富田弘、瀬野孝子、高山浩、高山薫

◎南大岡中野球部

金田正三監督、菊地孝幸、吉葉明彦、北条義孝、野口秀行、石川清治、松野哲也、倉持利男

壬生町教育文化祭は、十一月十一日中央公民館で、大勢の来賓客の中盛大に行われました。

この教育文化祭は、多くの教育関係者、町管内中学校の教師および生徒など約一五〇人が参加して行われました。

この席上で、教員の永年勤続者、模範児童生徒、社会教育優良団体に対し、佐藤町長から表彰状や謝状が次の方々に贈られます。

◎一年以上勤続教育関係職員

- 高橋俊一、田村優孝、朝日広生、吉栗英行、大橋孝、朝日成彦、篠原正直、黒田勝利、五井宏幸、大栗昭彦、柏倉正仁、毛塚部
- ◎南大岡中ハレボー部
- 中村孝子監督、青柳紀子、大栗明美、中間唯子、青柳節己代、岩谷涉子、栗原原子、島居昭江、水島豊子、湯本貴子、野口ゆかり、小平美佐子、杉原ゆかり
- ◎南大岡中中学校作文コンクール
- 特選 稲葉小、足助 幸子
- 特選 稲葉小、足助 幸子
- ◎東原郵便局長賞
- 稲葉小 大島 修司
- ◎栃木県教育ホスピタリ
- 特賞 壬生中、宇賀神 美子
- 国士建設作文コンクール
- 知事賞 壬生中、宇賀神美子
- 大岡中 落合 律子
- ◎中間唯子
- ◎栃木県選挙啓発ホスピタリ
- 特賞 壬生中 渡辺 庸子
- 下野書道展
- 金賞 壬生中、平石 和代
- ◎全国郵政友の表彰
- 大岡中 中学校交通クラブ
- ◎社会啓蒙関係団体
- 至宝町婦人会
- 代表者 大栗タカノ
- 七ヶ石女子ソフト部
- 代表者 大出 明
- 南大岡中PTA
- 代表者 亀田 和巳
- 上稲葉青年会
- 代表者 荒川 一範



かんぴょうで民芸品づくり

町教育委員会は、十一月十四日から三日間わたって、中央公民館で開講した高齢者学級に、果て初めの「かんぴょうづくり」講座を開きました。

これは、「かんぴょう」を利用して民芸品を作ろうと始めたもので、本町特有でもあり、材料も豊富とあって、当日は届から「かんぴょう」を用意されました。

これをおお喜りしたに自らの手で作ってみたいと、ひまわり(のこぎり)や紙や、トコニス、エナメルなどを準備して、みんな手さながらのなかのなかのべが、講座を開きました。

おお喜りしたは、「一生懸命に作った結果、戻入れ、や花立、お花、などいろいろのり、はな作品ができました。

ロマンスクラブが優勝



第十五回都営市紅毛豚奪奪軟式野球大会は、二四のチームが参加して、九月から三か月にわたって東管総合運動場を去場に熱戦が展開されました。七回を勝ち抜いて決勝戦に進んだ王生町ロマンスクラブは、NCC（日本中央競馬会（宇都宮））と熱戦がひろげられました。

試合内容は、ロマンス三回に相手投手のけん制球ミスに乗じて一点を先行、後半はチャンスを実に得点に結びつけ、落倉、植竹投手、結原、NCCを安打に抑え、結局六―〇で完封勝ちを挙げました。

親子凧あげ大会

今年も親子凧あげ大会を開きました。大空を舞う凧を見た瞬間を自由自在に見上げに飛ばしてみませんか。ふっつ参加ください。

主催 王生町
主 催 王生町教育委員会
とき 一月九日(日)・雨天の場合(一月十六日)
午後十時 午後二時
前橋葉思川左岸地防風凧作り場において注意

凧作りの際、刃物の取り扱いには、けがをしないように十分注意しました。空間がない現状です。あげる場所を十分考えることを指導しました。(交通事故発生電話) 電線電話線 構造物を調 親の立場から見守ってくださる()



玩具団地チームが優勝



これ、ロマンスクラブは、五年ぶりの一度目の優勝を飾りました。

王生町体育協会主催、開かれまして町内対抗野球大会は、十一月七日から四日間にわたって、総合運動場と玩具団地のグラウンドで行われました。

今回は、四十一チームが参加し毎週日曜日二カ所のグラウンドでそれぞれ熱戦が展開しました。試合の結果は、決勝戦で玩具団地チームと上田チームの戦いとなり、結局4―0で玩具団地チームが優勝し、準優勝は上田チームとなりました。

少年非行防止に一役



少年非行防止の一役

・有害環境の浄化活動を広げよう
・少年に愛のびと声運動を広めよう
・少年の万引きを防止しよう
・シンナーなどの薬物乱用を防止しよう
・未成年者の飲酒や喫煙をなくしよう

定額貯金証書をお持ちの方へ

郵便局からみなさんにお知らせしてまいりました定額貯金の利息が有利になる手続き()が済み次第にお知らせいたします。

お取扱期間は、来年一月十三日までとなっております。

まだ、この手続きのお便りでない方は、いまよくお近くの郵便局へ申し出て下さい。

なお、この対象となる定額貯金は、昭和四十九年九月二十三日以前にお預けになったものに限ります。

王生郵便局

タバコは町内で買いませんよう

タバコは町内で買いませんよう

子どもたちが楽しみに持っていたタバコが町内からなくなり、冬休みは、過ぎ去った二間の戻りや、新しい年を迎えるにあたっての希望や抱負をもたせるためのよい機会です。

そこで、この休みをつぎのよう()に注意して意義あるものにしていきます。

まず、学年の発達階段に即した、その子ならではの計画を立てさせたり、その子の個性をよりよく成長させるのに適した希望や抱負をもたせるようにしていきます。

また、お正月になると、家族ぐるみでの団らんや、親子の話し合いをするのにより機会です。やまとすすと、家族の一員としての責任に欠けがちな子どもたち、家族的な温かい人間関係を深めるようにします。

なお、この時期は、交通事故や流産が発生したり、危険な遊びによる怪けが多いようです。

それから、休み中の家のゆるみから問題や非行を引き起こすので、それにより家庭で十分注意するようにします。

そのほか、火災の多い時期でもありましますから、子どもたちの火遊びについてよく注意してください。

幼児の心臓検査

先天性心疾患について(一)

前回は、幼児心臓病検査についてお話ししましたが、今回は幼児の心臓病の主なものについて述べてみます。

今回と次回では、四つの先天性心疾患、生まれつき心臓に奇形のあるものについて述べてみます。

●先天性心疾患

先天性心臓検査の大きな目的は、生まれつき心臓の奇形を発見し、学校上がる前(手術等の処置や生活指導の指導等)ができるようにしてあげることです。

先天性心疾患は、思童、生徒で千人に二人位の割合で、幼児ではこれより少し多いのです。

(1)心房中隔欠損症
これは左右の心房の間に生まれつき穴があいている病気で、先天性心疾患中の十パーセントくらいあります。

(2)心室中隔欠損症
これは左右の心室の間に生まれつき穴があいている病気で、先天性心疾患中の十パーセントくらいあります。

(3)心室中隔欠損症
これも割合に元気で、普通の生活ができます。

(4)大動脈転位
これは動脈管開通とアテロ全に手術が要ります。



(心臓の図解)



十一月二十一日日曜日に、王生町青年団協議会が、安塚にあるせせらぎ学園へ餅つきに訪問しました。

一足先に餅つき

一足先に餅つき

せせらぎ学園へ餅つきに訪問しました。

十一月二十一日の日曜日に、王生町青年団協議会が、安塚にあるせせらぎ学園へ餅つきに訪問しました。

園児たちは、「この日のくるのを待ち待っていたかのように、全員が出席する」といった喜び方をしました。

この日は、土曜からはじまり園児たちといろいろなゲームをやったり、そのあと餅つきを行いました。

つき上がった餅は、青年団の人たちが先着センターで作りました。あんで、あんこ餅を試食して、園児たちは腹いっぱい満足そうでした。

正月のすこし方

子どもたちが楽しみに持っていたタバコが町内からなくなり、冬休みは、過ぎ去った二間の戻りや、新しい年を迎えるにあたっての希望や抱負をもたせるためのよい機会です。

そこで、この休みをつぎのよう()に注意して意義あるものにしていきます。

まず、学年の発達階段に即した、その子ならではの計画を立てさせたり、その子の個性をよりよく成長させるのに適した希望や抱負をもたせるようにしていきます。

また、お正月になると、家族ぐるみでの団らんや、親子の話し合いをするのにより機会です。やまとすすと、家族の一員としての責任に欠けがちな子どもたち、家族的な温かい人間関係を深めるようにします。

なお、この時期は、交通事故や流産が発生したり、危険な遊びによる怪けが多いようです。

それから、休み中の家のゆるみから問題や非行を引き起こすので、それにより家庭で十分注意するようにします。

そのほか、火災の多い時期でもありましますから、子どもたちの火遊びについてよく注意してください。

お知らせ



年末年始の役場事務は

年末年始の役場事務は、次のとおりです。特別の戸籍事務(死亡届、死産届)などは行っておりません。

- 十一月二十八日(月) 用納め
●十一月二十九日(火) 一月三日まで休ませていただきます。
●一月四日(土) 用始め

ゴミ集めの運休は

年末年始にかけて、町ではゴミ収集、処理および尿清掃作業を次のように休みますのでご協力ください。

1月の納税 お忘れなく 町県民税 第4期分

十二月三十日から一月四日までの六日間
し尿清掃作業の休み
十二月十八日から一月四日までの八日間
なお、休みの間は、ゴミや危険物は出さないようお願いいたします。

妊婦検診と血液検査

●とき 一月十七日(月) 午後一時三十分から
●ところ 母子健康センター

●妊婦者 王町に居住するを妊婦の方、また、結婚される方の血液検査も併せて実施しますのでご利用ください。(無料です)

三カ月児検診

- とき 一月十九日(水) 午後二時三十分から
●ところ 中央公民館日本間
●該当児 九月一日から十月十日までに生まれたお子さま。

一般健康相談

家族計画から成人病などの相談についてお気軽にお出願ください。
●とき 一月十八日(金) 十時から三時まで

訂正

十一月の町政だよりで「ベージュの「自治労者を表彰」の記事中「川島文之助氏」は「川島文之助氏」の誤りでしたので、お詫びして訂正します。

当番医師のお知らせ

一月の日曜、祝日は、次の医師以外は番休診になります。

Table with columns: 日, 町名, 医 院 名, 電 話. Lists on-call doctors for various towns like 仲通町, 上稲葉, etc.

◎当番医師の診はできません。

時間は午前九時から後四時



鳥居家中興譜に ついで

(その七)

松平行には、鳥居伊賀守(忠吉)と松平一郎右衛門をかわるゝる置くに。
忠吉は、在番(岡崎城)の仕事をすること、文いとときは、駿府に行き、日夜、幼ない殿様竹千代を扶け育て、一度竹千代を岡崎城にお遊したが、(註)竹千代は今川氏の命令で義元の近親(鶴姫)を夫人として迎へ、鶴姫といふ子も生まれたので、祖先の墓参をねて、一度岡崎に参ることが出来た。忠吉は、御先代(広忠)の様に、竹千代を岡崎城主にされるも謀り、こゝをめぐらし、心の中積る思いのため、ゆつくり息をつくひまもなかった。
幼君(竹千代)も、また忠吉にまれ親んでいふもはや離れず、常に忠吉の膝によりかかって、祖父・おいと、竹千代になつていた。
諸代の人たちも伊賀守(忠吉)の命をつけた。(註)松平竹千代が人質として駿府に居た頃は、竹千代の附人として、松平家の家臣酒井雅楽助(阿部新四郎)その他同じ歳ごろの家臣の子石川七郎平吉七之助など五人が小姓として附つていた。
忠吉の子、彦右衛門(元忠)は三河国の領地(居た)が十三歳で春駿府へつれて行かれ竹千代に仕えることになつた。
その時、竹千代は、十歳になつてたが竹千代の喜びは一方でなく、すぐに、竹千代のお相手するものになつた。
竹千代は、折し百舌鳥可愛がって、小鳥を飼ひ、昔は、鷹を使って、小鳥などをとらせることがあつた。これを鷹狩と言ひ、その時は、鷹を手の甲にのせて置いて、小鳥などを見つけるのを役目であつた。壬生町城内にも元鷹匠といつたところがある。鷹匠とは、鷹様の鷹を訓練するのが役目であつた)のように、手の甲にすまを言つて彦右衛門に教えたが、彦右衛門のすえ方が、竹千代の気に入らないというので、縁側から彦右衛門をつき落した。
おそばにいた者たちが、竹千代をよめた。
そして、彦右衛門は、忠吉とつて一番可愛い子でありました。
竹千代君を、心配する余り、はる遠い三河国からつれて来て、竹千代君のおそばに置くようになったのだから、情がなく、心のない振舞は、よそありませんと諫め申し上げた。(筆者 藍田)

“お知らせ”がおくれますから早く配布しましょう。